

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171400049		
法人名	社会福祉法人唐津福祉会		
事業所名	グループホーム浜玉荘		
所在地	佐賀県唐津市浜玉町東山田2399番地		
自己評価作成日	平成30年11月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年12月3日	外部評価確定日	平成31年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【わくわく】私達は、理念に掲げている「和・ほっ！ えがお」に基づき、安心から笑顔につながるよう支援に努めています。今まで暮らして来られた延長にグループホームがある様に共同生活ながらも個別支援を行い、入居者一人一人が楽しみを持って暮らし、居心地の良い場所となるように目指しています。【うらら】入居者の方が役割や楽しみを持ちながら生き生きとそして住み慣れた地域の中で安心してその人らしい生活を送ることができるように努めています。職員は常に入居者本位に物事を考え、入居者の方のその時々ニーズを察知し、笑顔を引き出せる支援に努め、研修等を通して介護職としての専門性を高められるよう、努力しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>入居の基準は要介護3までを目安にしている。母体法人は同じ敷地内に他事業も展開しており、歳を重ねる毎に難しくなる様々なことも見据えた対応である。また入居契約時に「家族も支援チームの一員である」と説き、協力を仰いでいることは、職員達との接点も増え、家族アンケートには「職員が身近に感じられる」と記されている。事業所側としても会話の機会が多いということは大きなメリットである。更に、毎月のモニタリングをケアマネージャーではなく、直接係わっている現場の職員が行っていることも特長である。利用者本位になっているか、現状に即しているかを見失うことなく支援されている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まず、理念はわかりやすく覚えやすくしており、職員全員が言えるようにしている。わくわくの理念である「和・ほ！・えがお」に基づき利用者の笑顔を引き出せるように努力している。毎朝夕、ミーティングでも理念に基づき、どう支援するか唱和している。	「思いやり・支え合い・笑顔」を理念としており、毎日、入居者と職員で唱和し、入居者・職員が家族であるという意識を持ち、理念の実践に取り組んでいる。	理念はユニット毎に掲げている。どちらも開設時の職員が創り上げたものである。過去に見直しを図ったこともあるが、常に立ち戻る原点として想いをそのまま引き継ぐことに落ち着いた。理念の下に具体的な項目を加えたことで職員には理解しやすくなっている。利用者の笑顔や、「ここがいい」という言葉には、それが活かされているのが窺える。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地上の問題があり、気軽に出掛けたりが難しい状況にあり、祇園祭・地域運動会・理美容・お茶会等、関係性が途絶えないように計画を立てている。	併設の特養や通所介護には地域住民の利用者が多く、交流の機会が持てている。また地域行事(祇園祭・運動会・等)への参加も積極的に行うようにしている。	広い敷地に法人の施設が集まっている。周辺に民家は少ないが、自己評価に記す通り施設内には地域住民の利用者も多い。法人のイベントである夏祭りには各利用者やその家族、またハガキでの案内もあり大勢の人達で賑わっている。地域の祭りや行事にも出掛け交流を図っている。九州場所で滞在中の相撲部屋を訪れたのは運営推進会議メンバーからの情報がきっかけであり、気軽にもたらしてくれる繋がりもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型グループホームの役割としても、利用者が以前住んであった地域へ出向いたり、面会時に地域の方やご家族との話の中で、認知症の人の理解や支援の方法を助言したりしている。	地域密着型グループホームの役割としても、利用者が以前住んであった地域へ出向いたり、面会時に地域の方やご家族との話の中で、認知症の人の理解や支援の方法を助言したりしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	まずグループホームから活動内容を報告し、各委員に問題提起して頂き、グループホームでその疑問に答えている。又、議事録を作成し事務局以外の職員も推進会議の流れ等を把握出来るようにしている。	2か月に1回開催しており、現況報告を行っている。会議録を作成し、全職員に周知し、意見をサービス向上に反映させている。委員の方より将棋ボランティアの方をご紹介頂いたり相撲力士の情報を頂き、見物にいく事が出来た。	一時間弱の会議時間である。当番制で家族にも出席をお願いしている。事業所からの報告で終始するのではなく、双方向な意見交換の場となっている。更に有意義なものとなるよう問い掛け方などの工夫にも努めている。また同日に昼食会を再開したことは功を奏し、外部の人の目が入る貴重な機会として活かせると共に少しずつ理解が深まるのも感じている。メンバー同士が顔見知りとなり相談し合う場面もみられる。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村には必要時いつでも連絡をとれる体制にはなっており、疑問点があればその都度聞き適切な回答を貰い協力関係が得られている。	質問や相談がある時は市町村の担当者に連絡するようしており、協力関係が得られている。	運営推進会議メンバーでもあり顔馴染みである。問い合わせや相談事があれば気軽に電話も掛け、実直に対応してもらえる関係は築いている。介護相談員も受け入れており毎月一回、2つのユニットで一時間程の滞在である。利用者との橋渡し役として、これからも率直な意見が伝えられることを期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束内容については勉強会等にて理解できている。ハード面では個々の思いでいつでも外に出る事が出来、内服薬に関しても専門医の助言を貰いながら最小限の処方となっている。	身体拘束についての勉強会を事業所内で行い、全職員が理解できおり拘束廃止に向けての取り組みを行い現在は拘束はなし。専門医にかかり最小限の内服薬となっている。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員は身体拘束の内容とその弊害も理解している。過去に実施した時には、安全面や家族の承諾を理由に正当化することなく、解除に向けた工夫等を話し合っている。事前に勉強会を開き、途中でも定期的な見直しを行い解除に至っている。また玄関や棟続きユニットでのドアにも施錠はなく、職員の見配りによって安全な暮らしが支援されている。仮に外へ向かう利用者がいても無理に引き返すことはない。行動を抑えないのが基本である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームでは、特に言葉による精神的虐待がなされないように言葉遣いは注意しあっている。又、認知症実践者研修等で学んだ事を現場に反映している。	高齢者虐待についての勉強会を事業所内で行い、学ぶ機会が持っており、職員による虐待が発生しないよう不適切なケアの自己チェック等も定期的に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を定期的に行っている。現在、日常生活自立支援事業(あんしんサポート)の利用者が1名おられる。	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を事業所内で行い、学ぶ機会が持っている。現在は必要性のある入居者はおられず、活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書以外にも文章を作成してそれに沿って説明をしている。契約等の際はじっくり時間をかけてわかりやすく説明をさせて頂いており、理解・納得を得ていると思われる。	分かりやすい説明を心掛け、不安や疑問点を聞く機会も設けており、十分に理解・納得して頂けるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は常に利用者の意見に耳を傾けている。又、定期的な介護相談員来訪で、要望を聞いて貰っている。ご家族に関しては面会時やケアカンファレンス時に意見を貰っている。	入居者には普段から、家族に対しては面会時やサービス担当者会議時に意見・要望を聞くよう心掛けており、運営に反映させている。月1回、介護相談員の来荘もあり。	家族の来所は多い。入居時には家族も支援チームの一員であると説明し、受診への付き添いや紙パンツ類の購入持参もお願いしている。直に会話ができる機会を大切にしており、世間話等も交えながら話しやすい雰囲気づくりにも努めている。時には訪れる家族の体調面を気遣い声を掛けることもある。ケアの対象が利用者だけではないと窺える一例である。ケアプランの話し合いも含め、出された意見は前向きに活かす体制もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は毎月の会議にて職員より意見や要望を聞く機会を設けている。管理者は出来る限り現場に出向き、職員の意見を聞きやすい環境作りを行っている。	代表者や管理者は毎月の会議にて職員より意見や要望を聞く機会を設けている。管理者は出来る限り現場に出向き、職員の意見を聞きやすい環境作りを行っている。	月一回の職員会議は2ユニット合同で約一時間、休みの人も出席している。限られた時間をスムーズに効率よく進めるために内容の事前周知や、検討してほしい事を予め募っておく工夫もある。会議前半は全員向けの周知や勉強会があり、後半はユニット毎にテーブルを分け、各々が係わる内容がテーマとなる。管理者としては働き易い職場であるよう配慮も必要で、コミュニケーションを図ることはもとより、自由に発言できる環境であることや休暇取得、定時での帰宅なども指導している。当外部評価の自己評価記入ではユニット毎に何度も話し合っており、職員の自主性へと繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況・悩み・疑問等を把握できるよう努めている。給与に関しては、唐津福祉会に属する他の同法人と水準を合わせて条件整備に努めている。	代表者は、職員の勤務状況・悩み・疑問等を把握できるよう努めている。給与に関しては、唐津福祉会に属する他の同法人と水準を合わせて条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握する様に努めている。職員は施設全体の勉強会にも出来るだけ参加している。法人外の研修を受ける機会も設けている。また、認知症介護実践者研修の受講修了者がいて身を持って現場反映に努めている。	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握する様に努めている。職員は施設全体の勉強会にも出来るだけ参加している。法人外の研修を受ける機会も設けている。また、認知症介護実践者研修の受講修了者がいて身を持って現場反映に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列事業所職員との会議を定期的 に実施しており、その他、グループ ホーム研修会に参加する事で交流 が出来、意見交換したことをサービ スの質の向上に繋げるように努め ている。	系列事業所職員との会議を定期的 に実施しており、その他、グループ ホーム研修会に参加する事で交流 が出来、意見交換したことをサービ スの質の向上に繋げるように努め ている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、本人の安心を確保する ための関係づくりに努めている	入居時にはコミュニケーションの機 会を多く持ち、関係作りに努め、本 人に困り事や要望等を確認し、ケア プランにも反映させている。	入居時にはコミュニケーションの機 会を多く持ち、関係作りに努め、本 人に困り事や要望等を確認し、ケア プランにも反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族 等が困っていること、不安なこと、要望等 に耳を傾けながら、関係づくりに努めてい る	入居され間もない場合は連絡を密 に取りながら、ご家族の気持ち・要 望等を言いやすい雰囲気づくりに努 めている。	入居時には家族と面談を行い、困り 事や要望等を確認し、関係作りに努 め、また確認した内容をケアプラン にも反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人 と家族等が「その時」まず必要としている 支援を見極め、他のサービス利用も含め た対応に努めている	在宅時の担当ケアマネージャーとも 情報を共有し、いくつかの方向性を 説明し、お互いに一番良い方法を 選んで頂けるような配慮を行っている。	入居時には本人・家族と面談を行 い、困り事や要望等を確認し、アセ スメントを実施した上で必要な支援 を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に 置かず、暮らしを共にする者同士の関係 を築いている	調理、食事の段取り(お膳並べ・後 片付け)洗濯物干し・畳み等家事全 般を職員と一緒にしる事で、ご本人 の意欲に繋がっていると思われる。	調理、食事の段取り(つぎ分け・茶 碗洗い)洗濯物干し・畳み等家事全 般を職員と一緒にしる事で、ご本人 の意欲に繋がっていると思われる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に 置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いてい る	病院受診は基本的にご家族にお願 いしている。ご家族での受診が困難 な方は職員が対応している。又、半 年に1回のカンファレンス・年間の大 きな行事には必ず声掛けしている。	家族も支援チームの一員との考え を入居時に家族に説明し、理解して 頂いており、家族が行う支援もケア プランに位置付けている。 病院受診は基本的にご家族にお願 いしている。(6名)困難な場合は職 員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が継続できるよう、生活歴や人間関係等の把握に努め、家族とも協力しながら支援に繋げている。 併設の特養やデイサービス利用の家族、親類、友人や双方のグループホーム入居者への面会も機会を設けている。	馴染みの人や場所との関係が継続できるよう、生活歴や人間関係等の把握に努め、家族とも協力しながら支援に繋げている。 併設の特養やデイサービス利用の家族、親類、友人や双方のグループホーム入居者への面会も機会を設けている。	入居までの様子を知るためには本人や家族、担当のケアマネジャー、また利用していたサービス事業所や病院関係者からも話を聞き情報を集めている。それらを踏まえて具体的な支援が提供される。電話の取次ぎや手紙の手伝い、行きつけの店へ買い物、また馴染みの理美容院へ通う利用者や盆正月の帰宅(宿泊も)もある。墓参りや法事への出席も家族の協力を得ながら支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格や精神状態を把握する事で、利用者同士の相性等も配慮する。又、利用者同士が仲良く関わってある時は、職員はあえて介入しない。	職員は入居者同士の関係を把握しており、関係性に配慮しながら、支援に努めており、入居者が孤立しないよう必要時には職員が介入している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談等がある場合はフォローを行っている。併設の特養への転居ケースが多いがその場合は本人に面会に行ったり、スタッフとの情報交換を行っている。	契約終了後も相談等がある場合はフォローを行っている。併設の特養への転居ケースが多いがその場合は本人に面会に行ったり、スタッフとの情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護計画作成時や普段の生活においても常に意向を確認しながらの支援に努め、困難な場合は生活歴や家族からの情報を踏まえ本人本位になるよう検討している。	介護計画作成時や普段の生活においても常に意向を確認しながらの支援に努め、困難な場合は生活歴や家族からの情報を踏まえ本人本位になるよう検討している。	利用者から想いが聞けるのは入浴中の寛いだひとときや、隣りで話し相手をしている時である。また爪を切りながらや、肩揉みなどのボディタッチも大切な時間である。目線を合わせ、相槌を打つことも心掛けている。聞き取った事は日々のケース記録や気付きノートに記したり、口頭で申し送ることもある。そこからケアプランに反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には入居者と家族より生活歴等の情報を得ている。また入居者からは普段の会話を通じて家族からは面会時や会議時等にも情報量を増やせるよう努めている。入居前の担当ケアマネジャーからも情報を得よう努めている。	入居時には入居者と家族より生活歴等の情報を得ている。また入居者からは普段の会話を通じて家族からは面会時や会議時等にも情報量を増やせるよう努めている。入居前の担当ケアマネジャーからも情報を得よう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりのその日の意向や現状把握を行いながら支援するよう心掛けており、変化や気付きがあれば、職員間での申し送りを行い情報共有できる体制にある。	入居者一人ひとりのその日の意向や現状把握を行いながら支援するよう心掛けており、変化や気付きがあれば、職員間での申し送りを行い情報共有できる体制にある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族との話し合いは勿論の事、担当医にも助言を貰っている。1ヶ月に1回はモニタリング・半年毎の評価で介護計画の見直しを行い、現状に即した支援が出来るようにしている。	ご本人・ご家族との話し合いは勿論の事、担当医にも助言を貰っている。1ヶ月に1回はモニタリング・半年毎の評価で介護計画の見直しを行い、現状に即した支援が出来るようにしている。	ケアプランは、入居して間もない時期は毎月の見直しとなるが、様子をみながら徐々に月を延ばしている。現在の設定期間は殆どが6ヵ月毎だが、その間に変化があれば臨機応変な対応もしている。本人の希望は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は面会時の会話から汲み取っている。サービス担当者会議でも同様である。現状維持を願う家族は多く、残存能力を活かすことも組み込まれている。毎月末のモニタリングではオリジナル表を用い、課題や目標の他に考察として日々の記録から拾った数値等も記されている。ケアマネージャーではなく、現場にいる各職員が行うことも特長である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況の変化は、個人記録に記入し、特に重要性・緊急性のあるものについては気づきノートの記録や申し送りを行う事で職員間の情報の共有を図り、実践に繋げている。	日々の様子等は個別記録に記入しており、情報共有が出来、支援に活かしている。また気づきや改善点がある場合は即座に話し合い、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	浜玉荘特有の特養・通所介護などの併設機能を活かしている。例えば、特浴が必要な場合には浴室を借りたり、スタッフの協力を得ている。	家族支援が困難な場合には個別的に外出支援(買い物・ドライブ)を行ったり、病院への受診支援を行ったりとその時々ニーズに応じた対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前からの地域資源の把握に努め、継続して活用できるよう家族に働きかけたり、職員も地域に出掛ける機会(地域行事・ドライブ等)を積極的に作るようにしている。	入居前からの地域資源の把握に努め、継続して活用できるよう家族に働きかけたり、職員も地域に出掛ける機会(地域行事・ドライブ等)を積極的に作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続でき るような体制になっているが、入居 の際にご家族より、かかりつけ医変 更の相談があれば、話し合いを行う ようにしている。	入居前のかかりつけ医を継続でき るような体制になっているが、入居 の際にご家族より、かかりつけ医変 更の相談があれば、話し合いを行う ようにしている。	本人や家族が希望する医師による 医療が受けられている。入居前から 通う馴染みの医師による往診もあ る。事業所近くの病院へ変更希望 があれば相談にもっている。状況 によっても希望する医療が受けられ るよう支援している。また受診の付 き添いは殆どが家族対応で、その 際はバイタル等の情報提供表を持 参してもらい日頃の様子が伝わるよ うにしている。職員が付き添う場合 には、家族への結果報告は当日中 に行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえ た情報や気づきを、職場内の看護職員や 訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利 用者が適切な受診や看護を受けられるよ うに支援している	医療連携体制加算を算定している 為、週1回は看護師が勤務しており、 情報の共有を行っている。また 看護師不在時は24時間の連絡体 制が確保できている。	医療連携体制加算を算定している 為、週1回は看護師が勤務しており、 情報の共有を行っている。また 看護師不在時は24時間の連絡体 制が確保できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相 談に努めている。又は、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書でグループ ホームでの生活状況(精神・身体 面)服薬等の情報を伝えている。入 院中は定期的に面会し、ご家族・医 師・ソーシャルワーカー・担当看護 師等との情報交換に努めている。	入院時には介護添書でグループ ホームでの生活状況(精神・身体 面)服薬等の情報を伝えている。入 院中は定期的に面会し、ご家族・医 師・ソーシャルワーカー・担当看護 師等との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所のできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化した場合や終末 期のあり方に関する説明を行っており、 必要時には関係者間での話し合 いを十分に行うように努めている。	入居時には重度化した場合や終末 期のあり方に関する説明を行っており、 必要時には関係者間での話し合 いを十分に行うように努めている。	入居契約時には指針の説明を行っ ている。法人の特養施設が併設さ れていることも選択肢にはなってい る。これまでに看取りの経験があ り、今後も希望があれば事業所の 体制等も見極めつつ判断するとして いる。真摯に向き合っているから その検討である。容態の変化に伴 い気持ち揺れ動くことも踏まえ、 十分な話し合いを重ねている。本 人や家族が安心して納得した最期が 迎えられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法(心肺蘇生法・AED)の実技訓練は法人内や事業所内にて定期的に勉強会を行い、手順の確認を行っている。	救急法(心肺蘇生法・AED)の実技訓練は法人内や事業所内にて定期的に勉強会を行い、手順の確認を行っている。	/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回、施設内での防災訓練(火災・地震・風水害・原子力)の実施あり。グループホームも定期的に参加し、夜間想定火災訓練を実施するようにしている。	月1回、施設内での防災訓練(火災・地震・風水害・原子力)の実施あり。グループホームも定期的に参加し、夜間想定火災訓練を実施するようにしている。	毎月一回、様々な想定での訓練がある。広い敷地内の法人全体が参加し、グループホームではその想定内容により利用者も一緒に避難を体験することがある。職員は消火器等の使い方も承知している。別途、夜間緊急全職員呼び出し訓練もあり、連絡網の到達時間の確認であったり、実際に駆けつけることもある。一斉連絡網には区長の登録もある。複数の施設が建つ場所であり、非常食や水等は全体として備蓄されている。年2回ほどは消防署や消防団も立会い、課題や気付きの指導には法人としての対応も早い。参加した職員からの情報も受け、各ユニットにも速やかに周知されている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や特徴を理解した上での言葉かけを心掛けており、特にトイレ介助に関しては、自尊心を傷つけない範囲で支援している。	浜玉荘の経営方針にもあるように「常に尊敬といったわりの念を持って接遇する」ことを念頭に置き、入居者への言葉かけや口調・対応には十分配慮している。	トイレや入浴の介助では特に配慮が求められる。ドアは閉める、見え難い立ち位置でのケアはもとより、排泄では自室のトイレを使用しているが、傍らに置いてあるタオルは下腹部に掛けて使うためであり細かい配慮が窺える。接遇研修も受けている。また個人情報の取扱いに対する職員の意識も高く、業務上のやり取りであっても声の大きさには注意を払っている。居室の名札やスナップ写真の掲示についても入居時に承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活全般において自己決定できるような言葉かけを行っており、表情等からも思いを察する事ができるよう努めている。	生活全般において自己決定できるような言葉かけを行っており、表情等からも思いを察する事ができるよう努めている。	/	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに職員が合わせるよう努めており、その日、その時の意向を利用者に随時、確認しながら支援を行っている。	入居者一人ひとりのペースに職員が合わせるよう努めており、その日、その時の意向を利用者に随時、確認しながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活スタイルが保てるように馴染みの理・美容室(移動)を利用されている。特別な行事のある日は希望者にはより入念な化粧やおしゃれの支援を行っている。	今までの生活スタイルが保てるように馴染みの理・美容室(移動)を利用されている。特別な行事のある日は希望者にはより入念な化粧やおしゃれの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1度は、利用者と一緒に調理・準備を行い、食事と一緒に頂いている。「片付け」は出来る範囲で行って貰っている。週1回は個人の希望のメニューにしたり、誕生日にはバースデーケーキでお祝いをしている。	行事食・鍋などを使用した食事の提供を行い、楽しみが増えるよう配慮しており、調理(月2回)・準備・食事・片付けも入居者と職員と一緒にしている。希望のメニューにしたり、誕生日にはバースデーケーキでお祝いをしている。	通常は併設の施設で作られた主菜が届き、ご飯と汁物は事業所内で作っている。またユニット毎に2~4回のオリジナル昼食があり、利用者に食べたいものを尋ね提供している。庭先で実ったトマトやサツマイモが食卓にのぼることもある。準備や片付けも一緒に行い、出来上がるまでの匂いも笑顔に繋がっている。利用者の好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手な食材や献立には代替えが用意される。職員も同じテーブルに着き、一緒に食べながら見守り、笑い声も聞かれる和やかな食事風景である。誕生日は当日に祝い、ケーキが用意され家族が訪れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には栄養士が作る献立(カロリー摂取量)に沿っている。入居者の食事や水分摂取量は毎日記録しており、一人ひとりの食事量や水分量・好き嫌いも把握できており、その事を踏まえた上で食事や水分を提供している。減塩食5名・水分強化1名の管理も出来ている。	基本的には栄養士が作る献立(カロリー摂取量)に沿っている。入居者の食事や水分摂取量は毎日記録しており、一人ひとりの食事量や水分量・好き嫌いも把握できており、その事を踏まえた上で食事や水分を提供している。減塩食1名・水分強化1名の管理も出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの能力に応じて言葉かけや介助等の口腔ケア(義歯洗浄含む)を行っており、口腔内の清潔保持が図れるよう支援している。	入居者一人ひとりの能力に応じて言葉かけや介助等の口腔ケア(義歯洗浄含む)を行っており、口腔内の清潔保持が図れるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄支援が必要な入居者に対してはチェック表を活用しており、排泄パターンの把握に努め、本人に合った排泄用品を使用したり、必要な方はポータブルトイレを使用している。昼夜を問わず必要な時間に支援を行い、トイレで失敗なく排泄できるような支援を行っている。	排泄支援が必要な入居者に対してはチェック表を活用しており、排泄パターンの把握に努め、本人に合った排泄用品を使用したり、必要な方はポータブルトイレを使用している。昼夜を問わず必要な時間に支援を行い、トイレで失敗なく排泄できるような支援を行っている。	排泄に関して自立した利用者もいるが、任せたままでなくさりげなく見守っている。排泄は自室のトイレを使用している。入居時には紙パンツとパットの併用だった利用者が、布パンツにパットをあてるだけで過ごせるようになった例もある。チェック表を活かした誘導で使用枚数が減る効果もみられ費用負担の軽減へと繋がっている。各居室のトイレには固定と可動式の手摺りも設置され、立ち座りを助ける補助具として自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防できる野菜・果物・乳製品等を普段からバランスよく取り入れる事が出来るような献立となっており、その他、体操や散歩など適度に体を動かす機会を作っている。入浴や排泄時に腹部マッサージも必要に応じて行っている。	便秘を予防できる野菜・果物・乳製品等を普段からバランスよく取り入れる事が出来るような献立となっており、その他、体操や散歩など適度に体を動かす機会を作っている。入浴や排泄時に腹部マッサージも必要に応じて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	行事や外出日・往診日と入浴日が重なり入居者の負担にならない様に実施日や午前・午後と入浴時間を分け又、着脱から入浴まで他者との関わりを嫌われる方には個室を行っている。	現在は週2～3回の午前中入浴を行っているが受診・外出時は午後から入浴など本人の体調等に合わせ行っている。	入浴は週2～3回を目途にしている。友人同士であったり、ひとりずつであったり希望に沿った支援である。入浴剤ではリラックス効果や、冬場は保湿効果のあるものを選び寛いでもらっている。身体的に難しい場合は併設の特浴設備も利用している。法人の集合施設ならではの対応である。脱衣場の暖気を浴室へ送り冬場のヒートショック対策とし、衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ羞恥心にも配慮しながら見守っている。入浴しない日でも清拭やシャワー、足浴等も織り交ぜながら清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	なるべく一人ひとりのペースに 合わせて休息や睡眠をとって頂き ながら、昼夜逆転されない程度に 日中の個々のペースに合わせた活 動支援を行っている。	入居者一人ひとりの生活スタイル やその時々状態に応じて休憩時 間を作っている。就寝時間も生活 スタイルに合わせており、個々に 合わせた明かりの調整をしたり、 安眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書にて内容の把握に努 めるようにしており、主治医の 往診時や病院受診時には状態報 告を行い、薬の変更後は特に異 常や変化を見落とさないように している。	職員は薬の説明書にて目的や副 作用などを理解するようにして おり、服用中は症状を観察し、 変化の有無を確認し、往診時 に主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	個々の生活歴を把握し、得意分 野(調理・裁縫・唄・塗り絵・大 正琴・散歩等)を継続する事で 活動意欲へと繋げられるよう支 援している。	入居者一人ひとりの生活歴や得 意分野・好み・楽しみ事などを 把握し、役割や楽しみを持ちな がら生き生きと過ごす事が出来 るよう介護計画にも反映させて いる将棋ボランティアを定期的 に利用されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している	バリアフリーで自由に外へ出ら れる。敷地が広く他事業所へも 自由に行き来が出来る。月1回 は季節のドライブ計画を目標に しており、入居者の希望を取り 入れた個別外出支援も行ってい る。	散歩や行事参加・ドライブなどの 外出支援を行っており、その他、 個別で希望される場所への外 出支援も行えるよう努めている。	買物などで本人から外出の希望 が出ることもある。またテレビ 等をみて話題を振れば興味を示 す利用者もある。個別の支援 や皆との外出を実施し、また 受診時を利用した家族との外 食やドライブ等も協力を得なが ら行われている。「定期的に希 望の場所へ出掛けることができ る」を目標達成計画に挙げ支 援している。天候や体調をみ ながら広い敷地内を散歩したり 、併設の施設へ知り合いを訪 ねることも日常的にあり、殆 ど外へ出ないという利用者はい ない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している	個人でお金を持っている方は1 名。買い物希望者には事務所 立替え金にて買い物に行き、レ ジでの支払って頂く支援を行 っている。	入居者の能力に応じて所持され ている方もおられる。また使 用機会がある時は入居者の能 力と希望に沿って出来るだけ 自分で支払って頂けるような 支援を行っている(現金所持者 3名)		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望時にはかけているが日中何度も要望される方に関してはご家族の精神的配慮も考え、他の事で気分転換をして貰っている。希望者には手紙の支援も行っている。	希望時や家族から手紙や贈り物が届いた時などは本人の意向や能力に応じて手紙を書いたり、電話をかけられるような支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音に関しては入居者の耳障りにならないよう注意しており、光や温度は個人差もある為、難しい面もあるが入居者全員が心地よく過ごせるよう配慮している。リビングには季節の花や飾り物で家庭的な雰囲気を出せるよう努めている。	音に関しては入居者の耳障りにならないよう注意しており、光や温度は個人差もある為、難しい面もあるが入居者全員が心地よく過ごせるよう配慮している。リビングには季節の花や飾り物で家庭的な雰囲気を出せるよう努めている。	高速自動車道から見下ろす位置に建つ事業所ではあるが騒音は殆ど気にならない。周囲は自然豊かな環境である。利用者が日中を過ごすリビングは明るく、日差しはレースカーテンで調節される。季節を感じてもらえるよう、お雛様や鯉のぼり、クリスマスの飾りなども折々に施されている。また24時間換気システムが稼働している中、定期的に窓やサッシ戸を開ける換気も行っている。廊下など利用者の動線上に通行を妨げる物もない。年2回は専門業者による清掃があり、居室では全てを一旦出して行われる。手を触れる箇所の消毒もこまめに行い、嫌な臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング(パブリック)廊下(セミパブリック)プライベートゾーンと3つに分けた考え方ができ、椅子・テレビ等を用意し、思い思いに自分の居場所の使い分けが出来ていると思われる。	リビング(パブリックゾーン)と東西には談話室(セミパブリックゾーン)があり、利用者一人ひとりが好きな空間で過ごせるような環境作りを行っている。 将棋コーナーも用意出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物という事でご家族の写真を持ち込まれている方、愛用品などこれまでの生活の延長として暮らして貰い、ご本人のペースに合せている。	居室には使い慣れた馴染みの物を持って来て頂くようにしており、その他、本人が好まれる、居心地よい空間作りにも努めている。	火気等の危険物以外に居室に持ち込む品物の制限はない。仏壇を持つ利用者もある。開設年度が違いため各ユニットの内装には違いがあり、クローゼットに飾り棚付きの居室では収納が出来ることで整理整頓もしやすくなっている。また月2回、生花が用意され思い思いに活けた花は各居室を和ませている。家具の配置や写真等の飾り付けは家族も一緒に行い、利用者毎の担当職員は衣替え等も手配している。家族の希望があれば居室での宿泊も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできる だけ自立した生活が送れるように工夫して いる	安全に移動して頂けるように居室内 のタンスやベッドの位置を変えたり、 最善の配慮をしながらその人の「出 来ること」の維持に努めている。	居室内のタンスやベッドも利用者一 人ひとりの日常生活動作の状態に 応じて配置したり、安全面と自立に 配慮した空間作りに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)			1. ほぼ全ての利用者の
			○	2. 利用者の2/3くらいの
		○		3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		○	1. 毎日ある
		○		2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○		2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○		3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○		2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない